

## 7. ナナフシ目

現地調査では、松村雄・多和田潤治・渡辺剛太郎・渡邊忠雄の各氏から御協力をいただいた。心より感謝申し上げます。なお、得られた試料は全て、筆者が同定・確認した。

### (1) ナナフシ目の生息状況

栃木県内からは、園部（2003）により1科5種のナナフシ類が記録されている。

本調査では、文献記録を含め3種が確認された。このうち、文献記録のみの種が1種である（表VII-7-(1)-1）。この結果、西那須野・塩原地区からは栃木県産ナナフシ類のうち、60%の生息が記録されたことになる。

【表VII-7-(1)-1 ナナフシ目の科別種数一覧】

科名※	本調査地の生息種	調査確認	(文献記録のみ)
ナナフシ科	3	2	(1)
計 1科	3種	2種	(1)種

※科の分類は園部（2003）に準じた。

ナナフシ目は体色が褐色ないし緑色を呈している。植物、特に木本類の枝や葉に擬態している昆虫として一般にも知られており、中には卵まで種子に擬態した種類もある。

確認種の特徴を概観すると、ナナフシモドキは平野部の二次林に広く生息する。特にサクラ類の葉上で確認されることが多い。

一方でエダナナフシは、平野部にも生息するがより高標高地に多く生息する。サクラ類のほかコナラの葉上で観察される。両種とも褐色から緑色まで、同一種内での体色変化が大きい。

シラキトビナナフシは本州、四国の山地の樹林帯に分布するとされる。調査地内では、1973年に塩原地区（大字名などは不明）から確認された、文献記録が唯一である。本種については、今後も注視する必要がある。

### (2) 保全すべき種

保全すべき種に該当する確認種はなかった。

### (3) 注目すべき種

注目すべき種は選定しなかったが、それに相当すると判断される種については、生息状況の項で概要を述べた。

(文責：渡辺 剛)

## 【目録】

※科の分類、種の配列、和名・学名に関しては、園部（2003）に準じた。

※生息確認種と生息エリアは、今回の現地調査結果及び那須野が原博物館所蔵の標本に基づいた。

※筆者らが未確認の種は、文献記録から引用した。

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
ナナフシ目						
ナナフシ科	ナナフシモドキ	<i>Baculum irregulariterdentatum Brunner</i>	○	○		
	エダナナフシ	<i>Phraortes illepidus</i> Brunner		○	○	
	シラキトビナナフシ	<i>Micadina</i> sp.			□*1	

## 【参考文献・引用文献】

※目録に引用した文献は、末尾に\*を付している。

環境省，2007．昆虫類レッドリスト．絶滅危惧種情報，環境省ホームページ．

加藤仁，1998．5) コムシ目・ナナフシ目．黒磯市動植物実態調査研究会（編）．黒磯市動植物実態調査報告書．黒磯市動植物実態調査研究会，pp. 421.

岡田正哉，1996．ナナフシ類．日本動物大百科 第8巻 昆虫Ⅰ．平凡社，pp. 114-117.

園部力雄，2003．ナナフシ目 Phasmida．栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫Ⅰ．栃木県林務部自然環境課，pp. 130-131. \*1

栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編，2005．レッドデータブックとちぎ．栃木県，898pp.